

京都府和束町における地域経済の現状分析レポート

和束町（わづかちょう）は、京都府の南部に位置する町です。京都市から約 30 km、奈良市からは約 20 km の距離にあります。この町は自然が豊かで、多くの茶畑が広がっていることで知られています。和束町は「茶源郷（ちゃげんきょう）」と呼ばれ、高品質な宇治茶の生産地として有名です。

歴史的に見ても和束町は茶の栽培が盛んで、その歴史は室町時代にまで遡ります。町の中には茶に関連する多くの施設があり、茶の歴史や文化を学べる場所も多いです。また、茶摘み体験や茶道体験など、観光客が直接茶の文化に触れることができるアクティビティも提供されています。

自然も豊かで、周囲を山に囲まれた美しい景観を楽しむことができます。散策やハイキングに適したルートも多く、四季折々の自然を満喫することができます。



レポート内容の要約

和束町は少子化と高齢化、人口減少が顕著で、地域経済も内部循環が低下していますが、黒字企業比率が高く経済的な強さを持つ面もあります。町政策としては、人口維持と経済活性化が重要な課題となっています。

1. 人口と社会動向

- 和束町の人口は、少子化と高齢化が進んでおり、合計特殊出生率は全国平均を下回る 1.17 で推移しています。
- 年齢層別の純移動数は、若年層の進学等による転出により生産年齢人口が転出超過となっている一方で移住制度等により年少人口は転入超過となっています。
- 和束町の総人口は減少傾向にあり、2050 年には約 1,306 人まで減少すると予測されています。

2. 産業と経済

- 地域内の生産は 90 億円で、地域外からの所得が 75 億円あり、和束町の総所得は 165 億円となっています。
- 産業構造では、農業が最大の産業で、次いで保健衛生・社会事業が続きます。
- 和束町の黒字企業比率は高く、83.3%ですが、地域外への経済流出も多く、地域経済循環率は 54.7%となっています。

3. 税金と公共サービス

- 和束町の一人当たり地方税は 108 千円で京都府内で下位、全国平均でも下位です。
- 人口 1 人当たりの歳出では、児童福祉費と土木費が全国平均の 2 倍以上であり、基本的なインフラ整備や教育サービスに重点を置いています。

4. まちづくりと生活環境

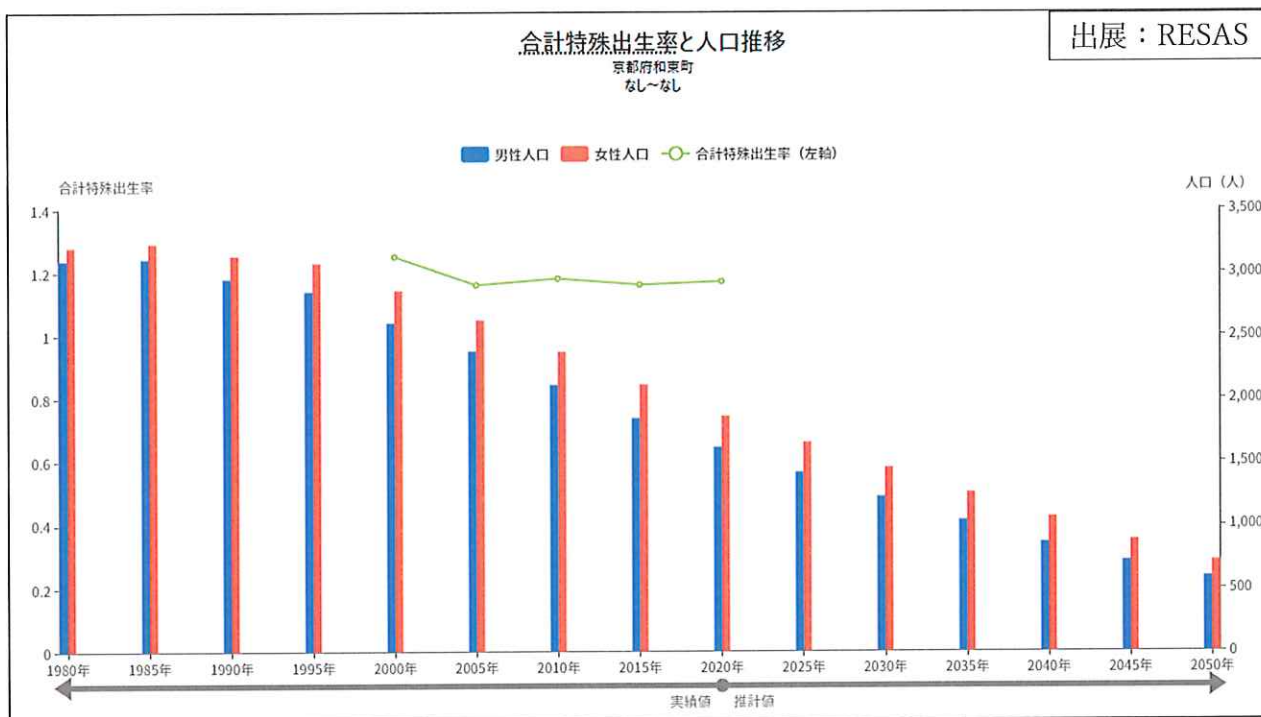
- 平日昼間の滞在人口は和束町民が最も多く、和束町外からの通勤者もありますが、全体的には夜間人口より少ないです。
- 町内の建物利用状況は戸建住宅が最も多く、事務所やその他家屋も多いですが、共同住宅やオフィス系建物は少ないです。

5. 交通とアクセス

- 和束町から京都市や奈良市への移動時間は車で約 30～60 分であり、地域内外への交通網が整備されています。

○現在の和束町

1.人口



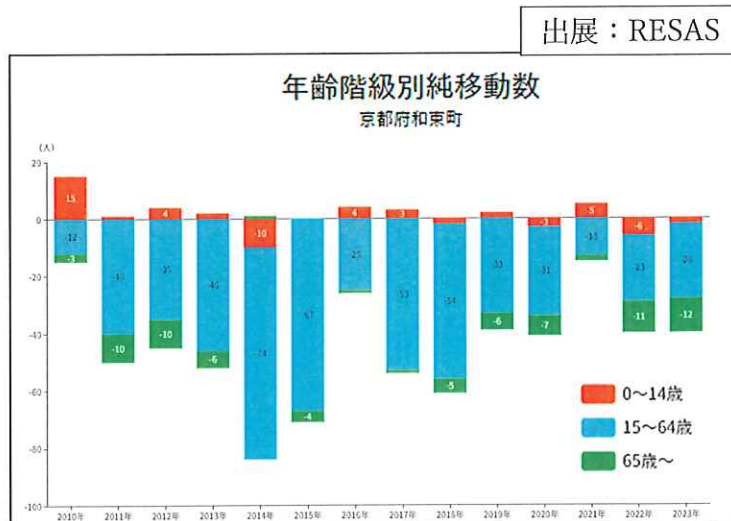
・合計特殊出生率

上図は、2000 年～2020 年までの和束町の合計特殊出生率（緑の折れ線）と 1980 年～2050 年の人口推移（予測を含む）を示しています。2010 年の合計特殊出生率は、1.18、2020 年は 1.17 であり、横ばいで推移しています。しかし、同時期の全国の合計特殊出生率は 1.3～1.4 であることから、和束町は全国値を下回り続けていることが分かります。また、若年層を含む総人口は年々減少していることもあり 2050 年にかけての人口推移は一貫して減少する予測となっています。

・年齢階級別純移動数

右図は和束町の年齢階級別の純移動数を示しています。生産年齢人口（青）や老年人口（緑）は 2010 年から毎年転出超過となっていることが分かります。特に生産年齢人口は、大学進学等を機に転出している可能性が高く、そのため他の年齢階級と比較して転出超過数は大きくなっています。

一方で、年少人口（赤）は転入超

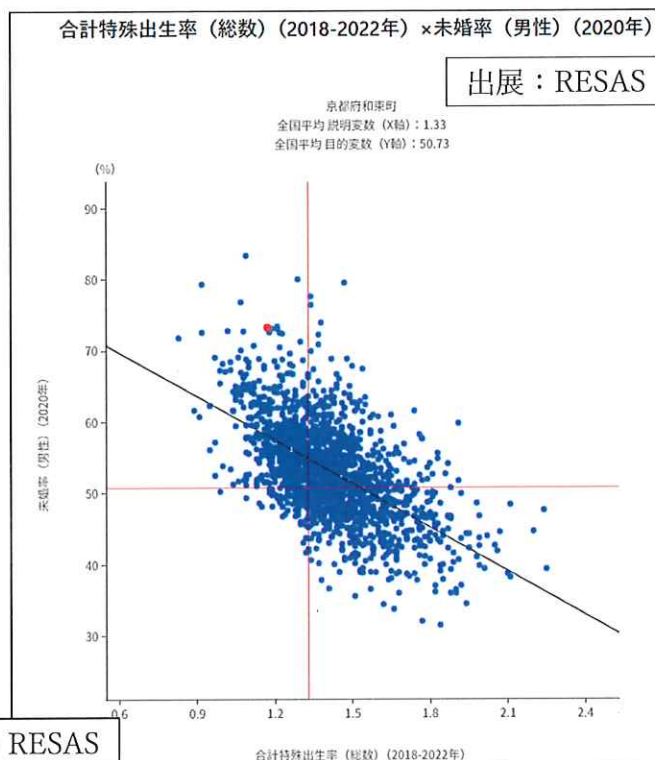


過になる年度が他の年齢階級よりも多くなっています。和東町は、移住・定住支援制度があり、子育て世代を中心に和東町に移住する世帯が多いため、このような結果となっていると考えられます。

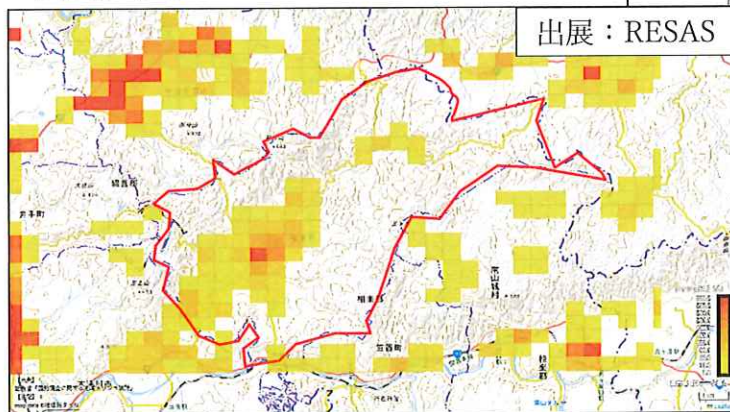
直近では2014年の85人の転出超過をピークに転出超過の人数は減少しており、2023年は40人の転出超過（転入52名、転出92名）となっています。今後は、和東町の魅力を発信して、和東町の移住者・定住者を増やすとともに、どのようにして転出者を減少させるかが課題となります。

・地域少子化・働き方指標

右のグラフは、横軸に合計特殊出生率を、縦軸に男性の未婚率としたときの各市町村のデータをプロットしたものです。赤い点は和東町のデータを表しています。和東町は、合計特出生率は全国平均よりも低く（1.17）、かつ男性の未婚率は全国平均よりも大幅に高くなっています（73.3%）。和東町で少子化が進行している真因は、グラフから読み取ることができませんが、男性の未婚率が高いために和東町の少子化がさらに進行しているということがこのグラフから読み取ることができます。



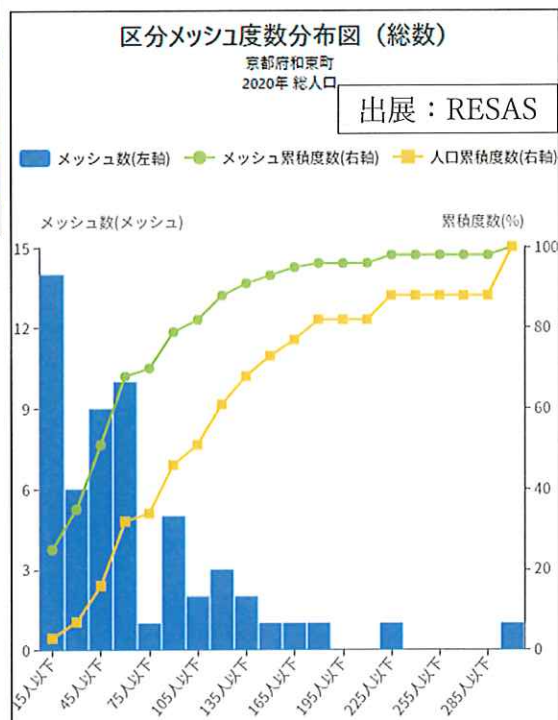
・人口メッシュ



右の地図は、和東町を中心にした地図です。（赤枠で囲んだ部分が和東

町）黄～赤色の四角形は、500m 四方のメッシュにおける人口数を色で表しています。赤色ほどメッシュ内の人口が多く、黄色ほど人口は少ないです。また、色のついていない部分は人が住んでいないことを表しています。

この地図の和東町内の赤色の部分には町役場や商工会があり、そこを中心に街を形成していることが分かります。和東町中心部から西方向の加茂町・木津川市方面にかけて府道5号線があり、それに沿って集落が点在していることが分かります。和東町中心部から反対の北東方面の府道5号



線沿いに一部集落があります。和東町中心部を南北方向（宇治田原町・笠置町方面）に府道 62 号線が通っていますが、町界付近にはあまり人は住んでいません。そのほか和東町の大部分は森林があるため、その地域には人は住んでいません。

また、前ページ右下のグラフ（区分メッシュ度数分布図）はその人口メッシュを人数別で集計したものです。最も多いメッシュは 15 人以下のメッシュで、和東町内にある全人口メッシュの約 1/4 を占めています。また、和東町人口のうち約半数は、100 人以下の人口メッシュ内に住んでいることが分かります。このことから人口の約半数は和東町の中心部に居住していますが、残り半分は 100 人以下の集落に住んでいることが分かります。

2. まちづくり

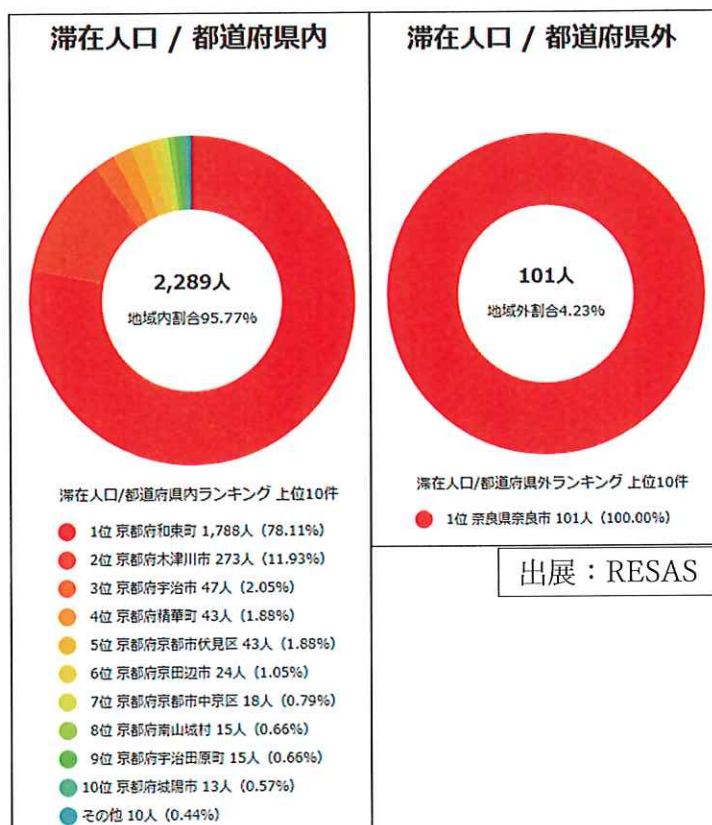
・平日昼間の和東町内の滞在人口について

右の円グラフは、平日昼間（10～14 時）における和東町内の滞在人口（15 歳以上 80 歳未満）を表したものです。うち左側のグラフは京都府民の滞在人口、右側のグラフは京都府民以外の滞在人口を表しています。

平日の昼間、和東町内の滞在人口で最も多いのは和東町民で 1,788 人です。続いて、木津川市民が 273 人となっています。その次に多いのが、奈良県奈良市民で 101 人となっています。以下はすべて京都府民で、宇治市民が 47 人、精華町民が 43 人という順位になっています。

和東町の 15 歳以上 80 歳未満の人口は、2,712 人であることから、和東町民の約 34%（924 人）は、平日昼間は和東町外へ通勤通学しています。

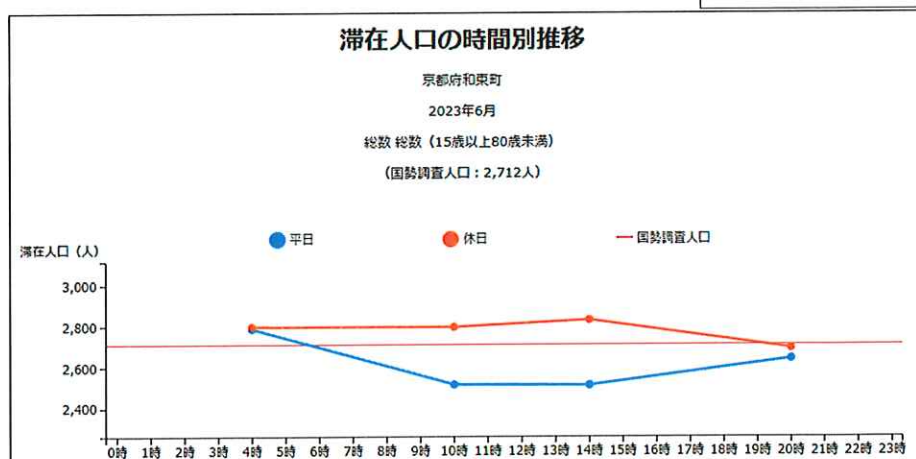
一方で、和東町外からは 501 人が和東町に通勤していますが、924 人より少ないため、和東町は夜間人口より昼間人口の方が少なくなっています。



・和東町の滞在人口

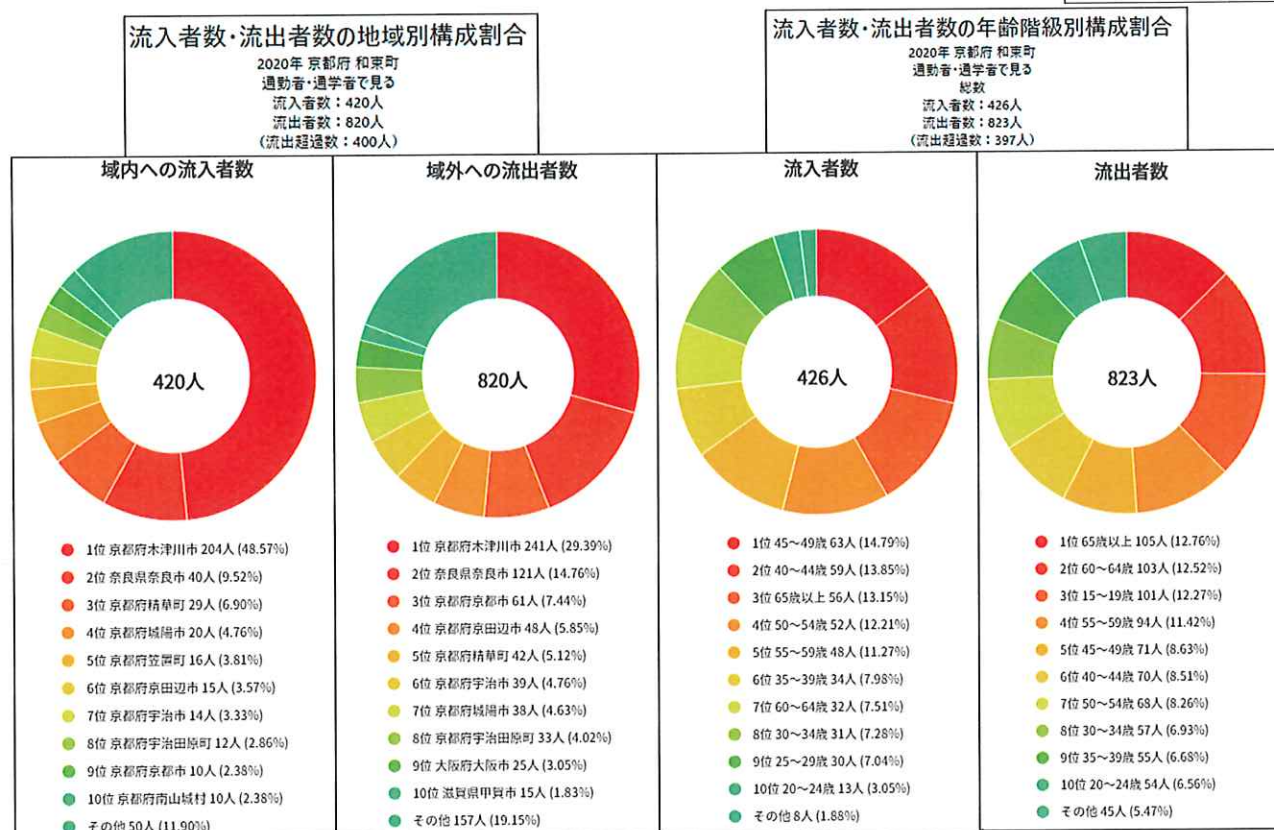
平日の和東町の滞在人口は、国勢調査人口

（2,712 人）よりも低い推移となっており、町外へ通勤通学している人が一定数居ることが分かります。一方、休日の滞在人口は 1 日を通して国勢調査人口よりも多い推移となっています。観光客など休日に和東町に来町される方が一定数いるため、このような推移になっていると考えられます。



・通勤・通学による和東町の流入者数・流出者数

出展：RESAS



上のグラフは、通勤通学による和東町への流入者数・流出者数を示しています。うち左側のグラフは地域別構成割合を、右側は年齢階級別構成割合を示しています。地域別と年齢階級別で数値は少し異なりますが、通勤通学によりおよそ400人が和東町外へ純流出していることが分かります。

地域別の和東町内への流入者のうち、木津川市からの流入者は204人、奈良市からの流入が40人、精華町からの流入が29人と上位の市町村は和東町の近隣の自治体となっています。一方、和東町内からの流出者のうち、木津川市への流出者は241人、奈良市への流出が121人、京田辺市への流出が48人とこちらについても近隣地域への流出が上位を占めています。近隣地域が上位を占めている一方で、流入者の上位には見られなかった大都市圏が上位に入っており（京都市への流出が61人、大阪市への流出が25人）、大都市圏へ通勤通学をしている和東町民が一定数居ることが示されています。

年齢別でみると、和東町への流入者のうち、45～49歳が63人、40～44歳が59人、65歳以上が56人と中高年齢層が上位を占めています。一方、流出者のうち、65歳以上が105人、60～64歳が103人、55～59歳が94人と高齢層が上位を占めています。その一方で、15～19歳は101人となっており、これは和東町内には高校がなく、高校生は全員町外へ通学していることを示しています。

・和東町内の建物利用状況

右のグラフは直近10年間の和東町内の種類別の建物数の推移を表しています。

和東町内で最も多い建物は戸建住宅（2023年現在で1,351軒）で、直近10年間、和東町内で戸建住宅が最も多いことが分かります。続いて多い建物が事務所で281軒、次いでその他家屋が272軒あります。その他家屋については直近10年で増加傾向にあります。

その他家屋とは「事業所兼住宅」と「判別が不能な建物」の合計を指しています。近年、和束町は空き家問題を解決するために、空き家の居住者に対し改修費用の補助金を支給しています。この居住者が居住専用ではなく、事務所兼住宅として改修するケースが多いため、増加していると考えられます。

その他の建物は2023年現在、和束町内にオフィス系建物は25軒、マンション・社宅等の共同住宅は8軒しかありません。

・和束町 産業別事業所立地推移

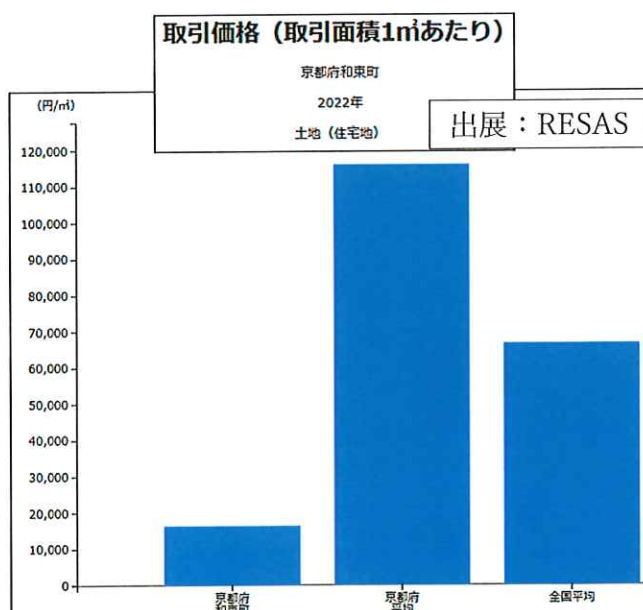
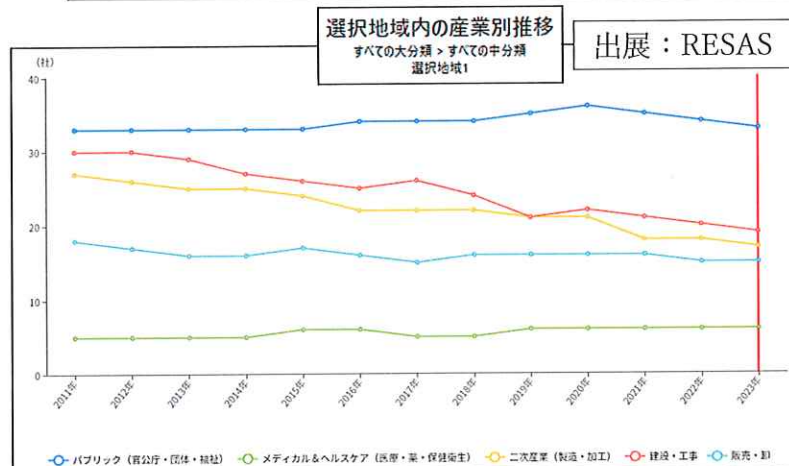
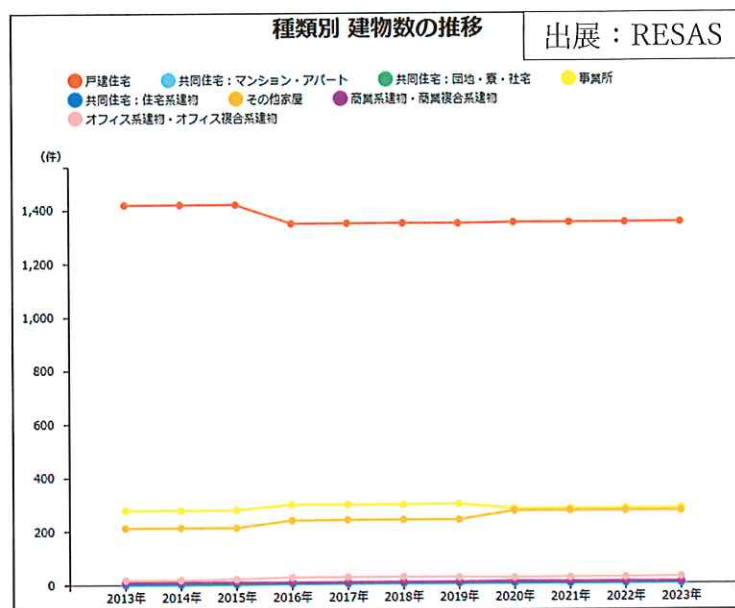
右のグラフは、和束町内の産業別事業所立地推移を表したグラフです。和束町内の事業所のうち、最も多いのが官公庁や団体、福祉であるパブリック系産業の事業所（青色）であり32～35社で推移しています。2番目に多いのが、建設・工事業の事業所（赤色）で現在は19社ですが、直近10年間の推移は減少傾向にあります。3番目に多いのが、製造や加工を行う2次産業の事業所（黄色）で17社ありますが、こちらも減少傾向にあります。

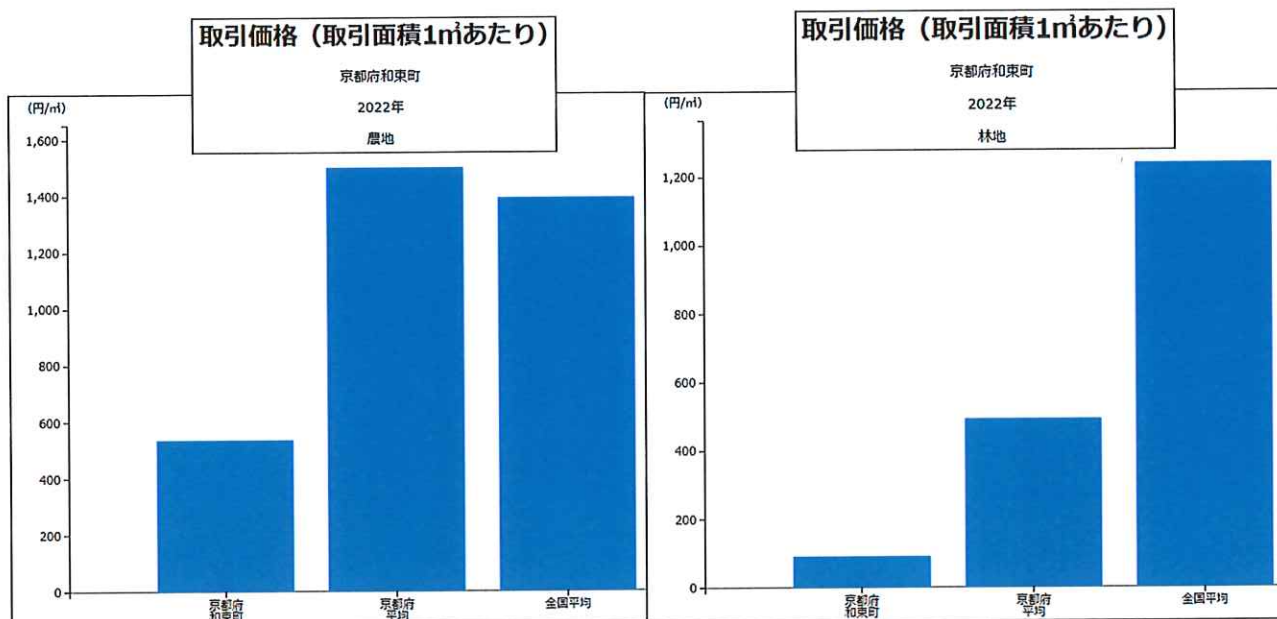
4番目に多いのが販売・卸の事業所（水色）で15社あり、直近10年間は横ばいに推移しています。医療や薬、保健衛生を扱うメディカル&ヘルスケアの事業所（緑色）はやや増加傾向にあり、現在は6社あります。

・不動産取引価格（1㎡あたり）

右のグラフは住宅地の、次ページ左上は農地の、右上は林地における1㎡あたりの取引価格を棒グラフで表しており、それぞれのグラフの左から和束町、京都府平均、全国平均の価格を表しています。

和束町の住宅用地の取引価格は16,323円/㎡（全国平均66,099円/㎡）、農地の取引価格は536円/㎡（全国平均1,352円/㎡）、林地は91円/㎡（全国平均1,268円/㎡）となっています。いずれの土地の取引価格においても京都府平均や全国平均よりも半値以下となっています。





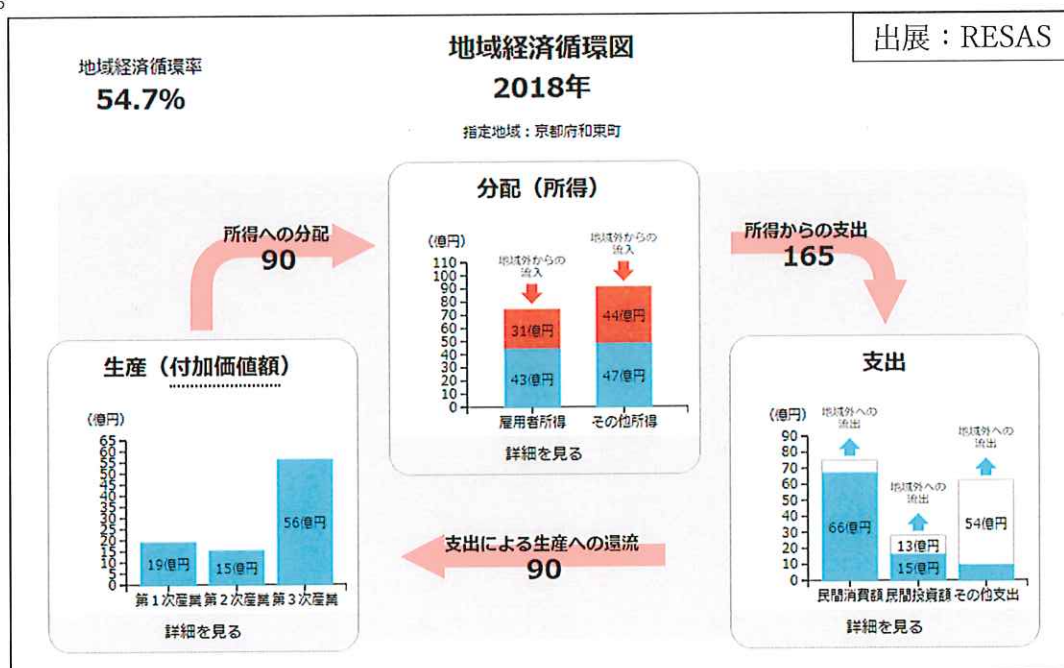
3.経済

・地域経済循環図

右の図は 2018 年の和束町の地域経済循環図を示しています。

和束町民が受け取る分配（所得）は合計で 165 億円となっています。和束町内の生産により 90 億円が生み出され、雇用者報酬として 43 億円、その他の所得として 47 億円が分配されています。また、和束町外からの所得は 75 億円となっており、うち雇用者報酬として 31 億円、その他の所得として 44 億円分配されています。和束町全体の総所得は 165 億円、うち 74 億円が雇用者報酬として、残りの 91 億円はその他の所得として和束町民に分配されています。

和束町内で得た所得 165 億円のうち、地域内での支出は 90 億円となっており、その内訳は民間消費が 66 億円、民間投資が 15 億円、その他支出が 9 億円となっています。一方で、地域外への支出は 75 億円となっています。



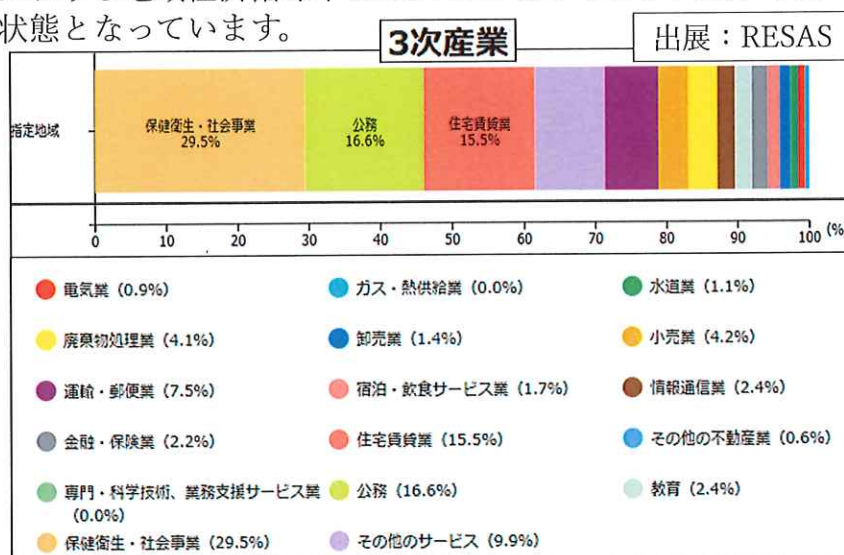
す。民間消費が 9 億円、民間投資が 13 億円、その他の支出が 54 億円となっています。

ここで、その他支出とは主に自治体による支出を示しており、地域のインフラ整備や教

育サービス、地域環境の整備等が含まれています。地域経済循環図ではこれらの支出のうち約 14.3%分しか和束町内の生産を行う事業者にはしか還流されていません。つまり、自治体が行おうとしている案件のほとんどが和束町外の事業者に発注している状態と考えられます。（なお、和束町内の第 2 次産業の約半数は食料品、もう半数は建設業となっています。）

この要因もあって、和束町内における地域経済循環率は 54.7%となっており、残りの約半分は和束町外に流出している状態となっています。

和束町の生産における付加価値額は 90 億円となっています。右図は和束町民が町内の第 3 次産業に支出した内訳を示しています。上位から保健衛生・社会事業（29.5%）、公務（16.6%）、住宅賃貸業（15.5%）となっており、いずれも生活必須の項目が上位となっています。



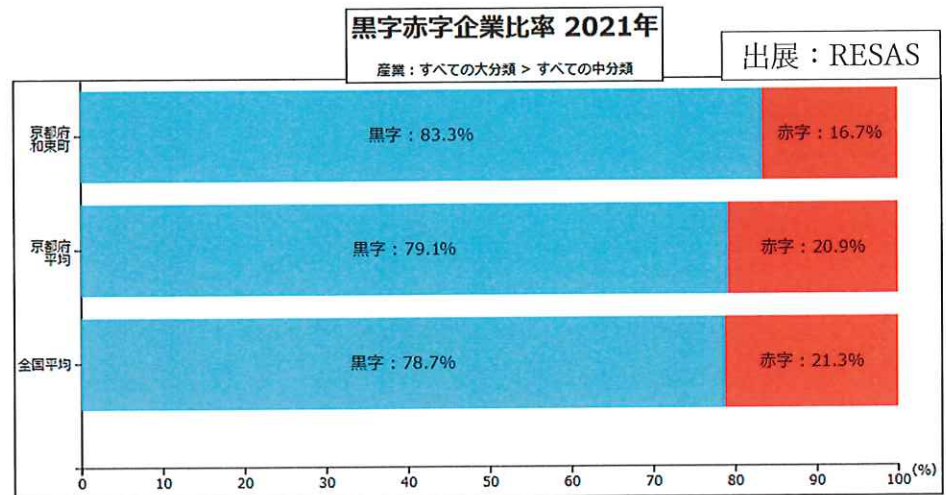
・和束町内の産業別付加価値額に基づく産業構造マップ

下図は、付加価値額における和束町内の産業構造マップを表しています。付加価値額が最も大きい産業は農業で 19 億円です。次いで保健衛生・社会事業が 17 億円、公務と住宅賃貸業が 9 億円、食料品と建設業が 7 億円となっています。



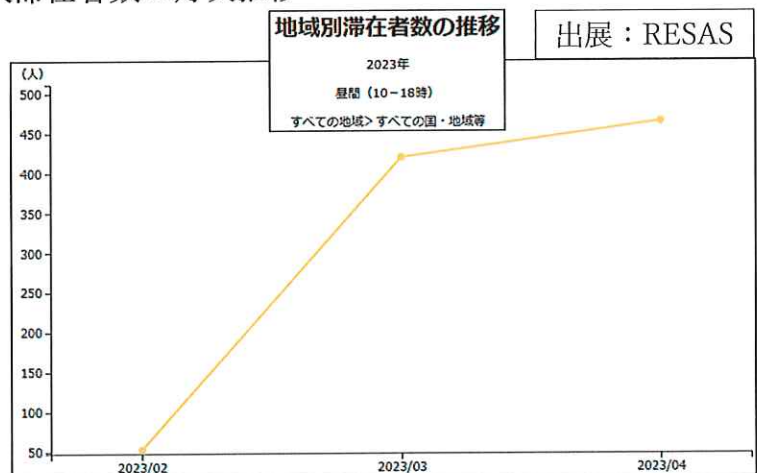
・和束町 黒字赤字企業比率

右図は黒字赤字企業の比率を表したグラフです。上から和束町、京都府平均、全国平均を示しています。和束町内の黒字企業割合は83.3%と京都府平均や全国平均よりも高くなっています。このデータは各自治体の黒字企業創出支援政策の効果や商工会による中小企業支援の効果を測る事ができます。和束町の場合、黒字企業の比率が京都府平均・全国平均よりも高いため、黒字企業創出支援や中小企業支援の効果は京都府や全国平均よりも高いことが分かります。



・和束町 昼間（10～18時）の外国人滞在者数の月次推移

次ページ右上の推移表は、2023年2月、3月、4月における和束町内での外国人滞在者数の推移を表しています。2023年2月は、新型コロナによる入国制限で、そもそも入国者数が少なく、その影響で和束町への外国人観光客は53人でした。2023年3月以降、3月の外国人滞在者数は420人、4月は465人となっています。一方、夜間（2～5時）の和束町における外国人滞在者数のデータはなく、昼間は観光に和束町を訪れているが、宿泊は京都市や大阪市など和束町以外でされていることが分かります。



・和束町内のキャッシュレス加盟店舗の推移（2019年10月～2020年8月）

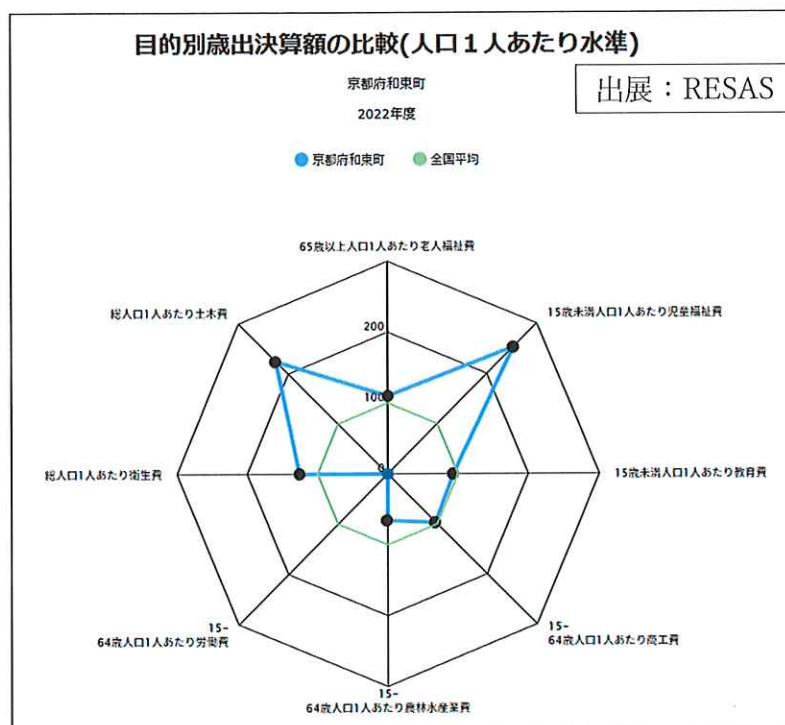
和束町内のキャッシュレス加盟店舗の推移は右肩上がりとなっています。2019年10月時点で17店しかありませんでしたが、2020年6月には29店まで店舗数が増加しました。特に12月ごろには急激に加盟店舗数が増加しました。これは2019年10月からの消費税増税に伴うキャッシュレスポイント還元事業に対応させるためにキャッシュレス設備を導入した店舗数が増加したと考えられます。また、2020年に入ってからからはキャッシュレスポイント還元事業とコロナ拡大に伴う非接触の決済ニーズの拡大によ



りさらに店舗数が増加したと考えられます。

・目的別歳出決算額の比較

右の図は、和束町の目的別歳出決算額について全国平均を 100 としたときの人口 1 人当たりの水準を示しています。合計 8 項目のうち 6 項目においては全国平均と同等もしくはそれ以上の水準となっています。特に 15 歳未満人口 1 人あたり児童福祉費と総人口 1 人あたり土木費は全国平均の 2 倍の水準となっています。(児童福祉費は全国平均の 2.5 倍、土木費は 2.25 倍) このデータから和束町は少子化対策とインフラ等の整備・修繕に注力していることが分かります。



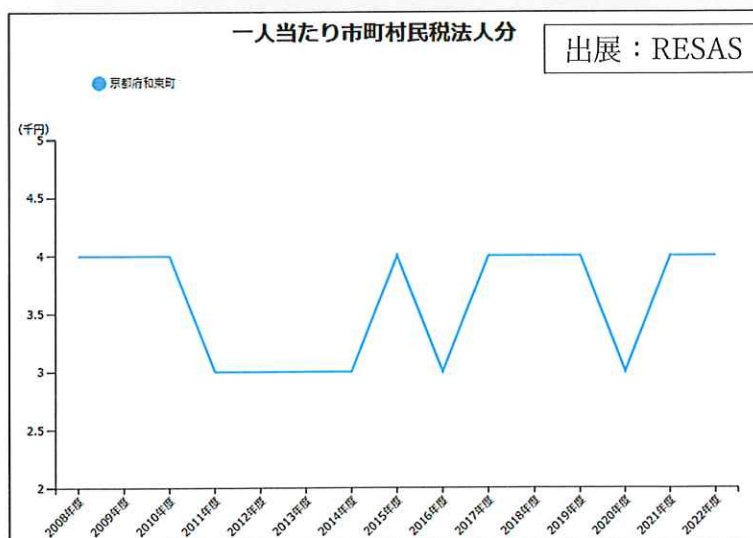
・一人当たり地方税

一人当たり地方税とは人口一人当たりの地方税収入の金額を表しています。算出方法は、地方税収を人口で割って算出します。つまり、その地域の企業数の多さや住民・企業の豊かさを表す指標であると言えます。

2022年度和束町の一人当たり地方税は 108 千円でした。これは京都府内 26 市町村のうち、上から 23 位、全国 1,718 市町村のうち 1,407 位という順位になっています。和束町は他の市町村と比較すると企業数が少ないため、全国平均よりも下の順位になったと考えられます。



また、和束町の一人当たり地方税額は 2012 年度から増加しています。2012 年度の一人当たり地方税額は 85 千円でしたが、2022 年度はその 1.27 倍にまで増加しています。和束町の基幹産業はお茶であり、和束町産のお茶の返礼品が人気で税収が年々増加していると考えられます。和束町のふるさと納税実績は、2012 年度は 382 千円でしたが、2022 年度には 3,026 千円と 10 倍程度まで増加しており、これが和束町の一人当たり地方税額の増加に



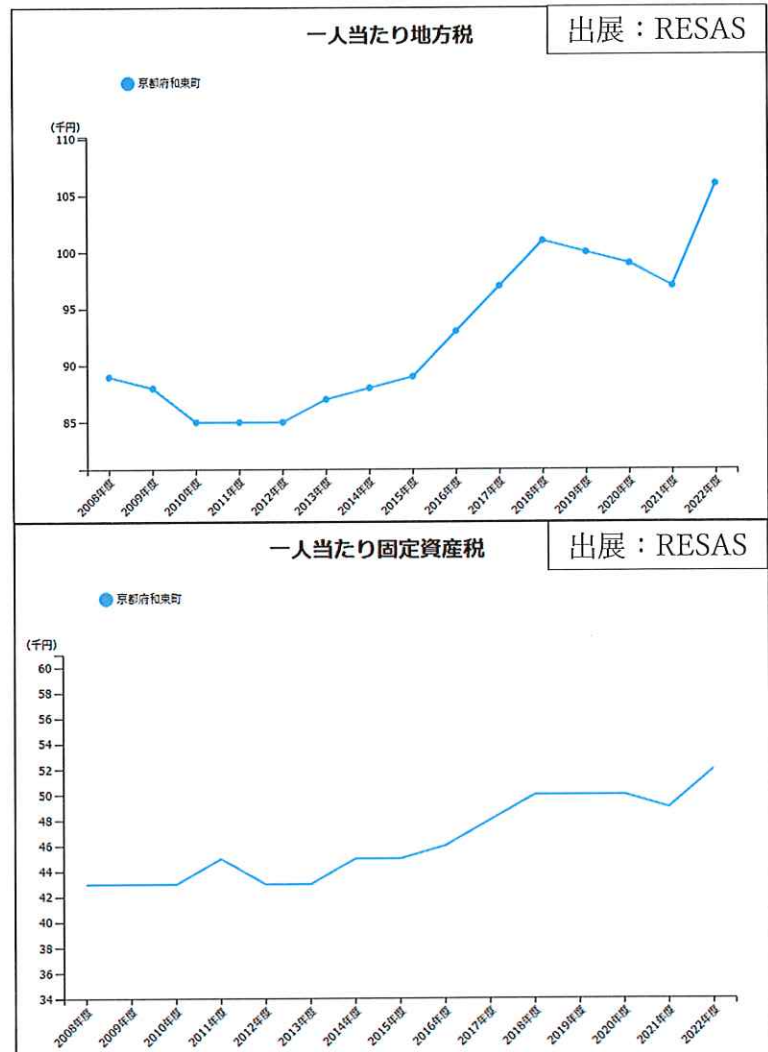
寄与していると考えられます。

・1人当たり市町村民税法人分

2022年度の町民法人税は一人当たり換算で4千円でした。直近10年間は、和束町の一人当たり市町村民税法人は3～4千円で推移しています。和束町内の法人は、黒字企業の比率は全国平均よりも高いですが、その金額は小さいことがこの図で示されています。

・1人当たり固定資産税

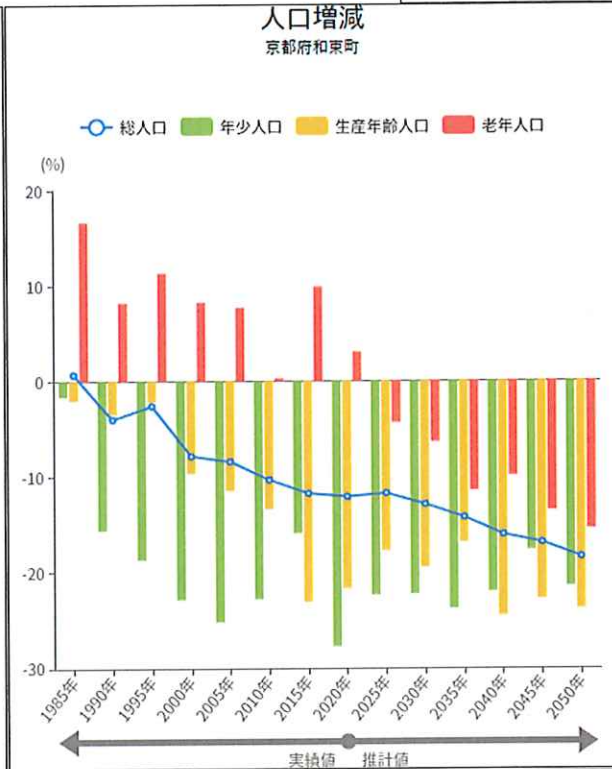
和束町の一人当たり固定資産税は、年々増加しています。2008年度は43千円でしたが、2022年度は52千円と約10年間で9千円増加しています。和束町内における固定資産税の税収額はほぼ横ばいで推移している（約1.9億円）のですが、和束町は少子高齢化に伴って人口が減少しているため、一人当たりの固定資産税額が増加していると考えられます。



○将来の和束町

・人口推移の予測

出展：RESAS



左上の折れ線グラフは、1980年から2050年までの和束町の人口推移（予測含む）を表したグラフです。和束町の2020年現在の総人口（青）は3,478人で、人口がピークだった1985年の6,333人から半減しています。右下の和束町の人口増減を表したグラフから分かるように生産年齢人口（黄）と年少人口（緑）は1980年代から一貫して減少しており、2025年以降も約20%程度の減少が見込まれています。これに加えて2025年ごろから老年人口（赤）も減少すると見込まれており、その減少幅は年々拡大すると予測されています。

以上の予測データから2050年には和束町の総人口は1,306人と現在の約38%まで減少すると予測されています。

・和束町の将来の人口ピラミッド

和束町の2050年の人口ピラミッドは右の図のようになります。65歳以上の高齢人口が和束町の総人口の約66%を占めることから逆ピラミッド型になると予測されています。一方、45歳未満の各年齢の人口の割合は2%を下回っており、和束町全体の総人口は、特段の政策がなければさらに人口が減少していくと考えられます。

